

二〇二三（令和五）年度  
日本文学専攻博士論文・修士論文  
日本文学専修卒業論文一覧

博士論文

なし

博士論文中間報告書

大江健三郎文学における方法としての「知的障害者」——「障害者との共生」という物語の再考——  
松本拓真

修士論文

『更級日記』の和歌

——歌ことばとしての側面から——

藤館清香

抑圧と残酷

——戦中戦後谷崎文学の女性たち

田中美咲子

「よそ者」から「けもの」へ

——安部公房の五十年代作品における政治性

吉 寒哲

澁澤龍彦『エビクロスの肋骨』所収三作品

における不確定性の問題と「価値転換」

について  
三浦 紫子

卒業論文

True End

——卒業制作『True End』の位置づけについての考察

藤田 楓

北條民雄の作品は「癩文学」なのか

——「いのちの初夜」「癩院受胎」における表現とともにも探る

石浦直樹

失われた時を求めて

——藤本タツキ「ルックバック」論——

笹原虎太郎

豊田三郎『行軍』

——長編小説の価値と生き方

キムドヨン

ユダという主人公

——「駆込み訴へ」論——

田中恵菜

芥川龍之介「疑惑」論

——玄道の支配へはかない抵抗とその末路——

堤 千聡

侵食する語りと時間

——江戸川乱歩「押絵と旅する男」論——

坂下達哉

呼びかけるメディア、問いかける「小説」

——大江健三郎「生け贄男は必要か」論——

又吉さくら

踊るあなたを見つめる「私」

——江戸川乱歩「踊る一寸法師」を読む——

戸高里紗

〈語り／騙り〉による「夢想」の種

——佐藤春夫「美しい町」論——

私たちはなぜ「脱毛」するようになったのか？

——一九八〇年代以降の大衆雑誌をめぐる言説史研究——

勝盛智花

「いのちの初夜」論

——表記の差異を通じて見えてくるもの——

仁木彩乃

尾崎翠「地下室アントンの一夜」における

外界への意識

異類を物語るということ

——多和田葉子「犬婚入り」と本谷有希子「異類婚姻譚」の比較から——

岩崎未夢

大田洋子『桜の国』他、戦中文学論

——「大衆プロレタリア小説」を志した「女人芸術」時代からの連続性をめぐって——

渡邊美司徒

平林たい子が描く女たち

——「治療室にて」再考と「北海道千歳の女」論の視座から

辻 美舟

太宰治「道化の華」論

——多様な〈道化〉と「華」の在り方——

中島琴音

「戦後民主主義」の陥穽

——大江健三郎「セヴンティーン」「政治少年死す」論

田口 耀

中世の『一寸法師』にみる母親の二つの顔

——お伽草子が描く親子の別れ——

村上音織

秋田県立図書館版『御曹司島渡』の本文検

討と『天狗の内裏』との関連の考察

糸谷拓真

『本朝神仙伝』に見る神仙の変容

イザナキの呪具をめぐる研究

——「古事記」「黄泉国」及び「醜」段を中心として——

鈴木はるの

教育の世界と国語教育における見ええない強

制

Z世代における現実世界とバーチャル世界

の世界観の関係性

——「蛇」のイメージに関する歴史的变化によって

サイユウミ

都道府県の使用実態から見る「やさしい日

本語」の課題と可能性

村上 穂

類義語の計量的研究

——語種間の使い分けから見る課題と展望——

大下 由乃